

第 31 回 笠山町町内会協力組織団体交流会 報告

2026 年 1 月 17 日(土)、役員ら 47 名が参加し、親睦を深める交流会が開催されました。

1. 会長挨拶:町の現状と課題

棚橋会長より、笠山町の歩みと今後の方針が述べられました。

昭和 63 年の分町開始以来、現在は市内 2 番目の世帯数を誇る規模へと成長し、近隣の教育・医療機関が集積する「文化ゾーン」としての強みを有していること。

一方で、70 歳以上の住民が 700 名を超える高齢化の進行や、若年層の未入会・退会者の増加が喫緊の課題であること。

地域の安全を守る防犯・防災は住民同士の協力が不可欠であり、今後も交流事業を通じてコミュニティの楽しさを伝え、ハード・ソフト両面から「住んで良かった」と思える魅力ある町づくりを推進していく方針が示されました。

2. 講談:旭堂南風氏による演目

滋賀県在住唯一の講談師、旭堂南風氏を招き、二部構成の講演を鑑賞しました。前半は、48 歳で異業種から弟子入りした経歴をユーモアを交えて紹介し、講談特有の様式美を披露。後半は、忠臣蔵の外伝「大石東下り」を熱演されました。討ち入りへの覚悟を察した垣見五郎兵衛が、あえて泥をかぶって道を開ける武士の人情の機微が描かれ、最後に「歴史の宝庫である滋賀の魅力を発信し、地元を盛り上げたい」との抱負で締めくくられました。

3. 交流会:対話による連携の深化

会食後の交流会では、町内会が「地域の隙間」を埋める基盤であるとの認識を共有しました。

笠山町では、組長会、広報部、体育部、ふれあい事業部などが各々の専門性を発揮して活動していますが、組織の垣根を越えた「顔の見える関係」こそが防災・福祉の要となります。当日は、普段異なる立場で活動する参加者同士が活発な意見交換を行い、連携を深める貴重な機会となりました。

今回の交流会は、参加者の笑顔とともに、魅力ある町づくりへの新たな一步を刻む場となりました

第31回 笠山町町内会協力組織団体交流会

場 所	笠山会館 2階大ホール
開 催 日	R8年1月17日(土) 11:00~13:30
参加対象	町内会、組長、各組織団体長
実施内容	司会進行 ふれあい事業部 川田部長、近藤副部長、岸村部員
あいさつ	棚橋町内会長
余 興	講談(講談話) 講談師：旭堂南風氏滋賀県唯一の講談師 講談特有の様式美を披露(ユーモアを交えて忠臣蔵の外伝 「大石東下り」熱演されました。
交 流 会	対話による連携の深化「組織の垣根を越え「顔の見える関係」の普段異なる立場で活動する参加者同士が意見交換を行い力を活かし共に学び、共に育み連携を深める貴重な機会となりました。





お茶、コーヒ類飲物、お茶菓子等々

和食お弁当（三段重）



参加者：47名＋講師

・情報意見交換で連携を深める場面